

北海道教育大学 麻疹（はしか）による休校 と 後期高齢者医療制度の始まり

4月4日、北海道教育大学新入生の1人が麻疹（はしか）と診断され、その後、各キャンパスにおいて新入生複数名の発症が確認されています。

流行の拡大を防ぐため、4月10日より16日（旭川は18日）まで新入生全員に休講、外出禁止の措置を取ったそうです。

麻疹の症状は、はじめに高熱とともに咳、鼻水、目の充血、目やになどカゼのような症状が現れ、3、4日経っていったん熱が下がり気味になった後、発疹の出現とともに再び高熱が出るのが典型的ですが、なかには熱が微熱程度だったり、発疹すら出なかったり、症状がはっきりしないこともあるそうです（修飾麻疹）。

その後、新入生が休校明けで登校したところ、再度の休講（全学）の必要性が確認され、3週間の休講となりました。

次男がこれにより、急遽帰省することになり昨夜遅く帰ってきました。

5日前に20才の誕生日を迎えたこともあり、遅れて誕生日を祝いました。



昨年から大学での麻疹流行による休講が相次いでいますが、予防接種制度の変更や抗耐性のウイルスなど、昔とは違う発症年齢など、気になることが多いですね。

鳥インフルエンザの当然変異による新型インフルエンザの流行も言われていますが、医療関係者を対象に予防接種を行うことを政府は発表しましたが、一般国民にも対象を広げるそうです。

後期高齢者医療制度が始まり、対象の方々は情報の少なさに戸惑っているようです。今日の次男の祝いで義父母も一緒に食事をし、その後その話になりました。大きな枠組みは知っていますが、細かい話になると私もよく分からないことが多くあります。

市民に対して詳しい説明をする時間がないままにここまで来てしまっている感がありますね。市役所で詳しい説明をしてもらった方がいいと話しておきました。

国民の安心・安全の確保は政治の大きな責任ですが、少子高齢化、地球環境問題、医療の増大など様々な問題が絡み合って、難しい時代になっていることは確かです。

糸魚川市の医療問題も、糸魚川総合病院の循環器科増築で一段落付いたところですが、まだまだ課題は多いと思っています。美野先生が姫川病院跡地で開設している脳神経外科のクリニックも姫川病院の破産処理と関連し、糸魚川市からの援助を受けないままに診療を続けています。今後の脳神経外科の確保、この分野の救急医療の確保を図っていかなければなりません。

美野先生は独力で地域医療の重要な部分を担っていく覚悟をお持ちのようですが、糸魚川市は総合的に政治責任を果たしていかなければなりません。所管の常任委員会の一員としても、この問題に真っ正面から取り組んでいかなければならないと感じています。

平成20年4月20日